

FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

退職者のご紹介

FSCでは本年度をもって2名の教員がご退職されます。また、FSCに縁の深い、大動物臨床学研究室の渡辺大作先生もご退職されます。今号では3名の退職者からご挨拶をいただきましたので、ご紹介します。



【寶示戸 雅之セ
ンター長】

9年間ありがとうございました

私が赴任したのは東日本大震災直後、2011年4月でしたが、てんやわんやの中、貸家の下見も出来ずにいきなり十和田に越して参りました。講義や実験の準備は聞いていた通り大変で、慣れるのに3年、5年経てばゆとりできる、まさにそのままでした。幸い、農場の方々には大変親切かつ丁寧に仕事を補助していただき、講義も実験も楽しく効果的なものだったと思います。中でも特筆すべきは、南相馬の放射線調査事業に、久保田(弟)さん、泉さん、久保田(兄)さんに休日を使って牛の解剖やら草地造成、土壌サンプリングなど力仕事をお願いしたことで、あの荒れ果てた南相馬の高線量条件下で良く動いてくれました。この3月で定年退職するのですが、このコロナウイルス騒ぎは何なのでしょう。まるで9年前のような騒然とした中、あらゆるものがキャンセルされ、少々寂しい思いで去ることにします。ありがとうございました。



【畔柳 正 准教授】

FSC頑張つて

皆様に支えられて何とか定年退職を迎えることができました。感謝申し上げます。私が畜産学部畜産学科の4年生の夏に卒業研究で、実践教育の場所として民間から大学が購入した八雲牧場に来場し、その魅力に惹かれて1年間の実習を経て、職員、教員として学部学生の牧場実習の指導、肉用牛の飼育管理、実践教育の運営に34年間係わらせていただきました。その後十和田キャンパスで8年間FSCの一員として、学部学生への畜産学の教育指導はもとより、FSCの目的である「土地、植物、動物およびそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、地域社会の発展に寄与する」として、地元肉牛生産者との交流により微力ながら貢献できたものと思います。今後も、FSCが学部学生の貴重な畜産教育、研究の体験の場として、また地域社会の発展にも貢献することを願っています。皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

【渡辺 大作 教授／大動物臨床学
研究室】

緑のキャンパスと未来

平和田農場があつてよかつた。」と思う。キャンパスの中に原生林？と緑の草地在が広がっている風景は美しく、四季折々に眼を楽しませてくれた。獣医学部に赴任以来15年、そのうちの7年間農場長をさせていただいたが、

お知らせ と 編集後記

FSCでは、今回ご紹介した御三方のほかに、八雲牧場の教育系技術職員、庄司勝義さんがご退職されます。ご退職される4名の皆様におかれましては、長い間本当におつかれさまでした。第二の人生の門出をFSC教職員一同よりお祝い申し上げます。

また、次号からの来年度4号分は休刊となります。2021年度より再開しますので、よろしく願いたします。

最近動物を用いた実習や研究が少なくなつたと思う。なかでも、豚は畜産物として重要であるが、その臨床実習は多くの大学であまり行われていないのではないだろうか。私たちの実習では、豚の保定、注射法、麻酔、去勢、採血などを実施、学生たちに教育できた。キャンパス内に豚舎があればこその実習である。農場では衛生検査も毎年実施し、豚では全国のほとんどの農場に蔓延しているPRRSウイルスやサーコウイルスがフリーで、牛の白血病ウイルスも陽性牛は出ていない。これらのウイルスが畜産に大きなダメージを与えている現在、数少ない貴重なモデル農場といえる。



(豚の保定・採血
実習の様子)